

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

晩秋の「名残の紅葉」を楽しむ時期なのだが、冬の気配を強く感じてしまう。「季節の手帖」で幸田文さんがつづいた随筆に「いつ

とき身を綺麗に染め上げた木々の葉が、やがてハラハラと舞い落ちる。花よりも優雅に鮮烈に。季節の移ろいに優しいまなざしを向ける作家は(これほど美しいのちの果と、いうものが他にあらうか、と思う)。「と色豊かな色彩を見せてくれる日本の四季を表現している」。

この四季を楽しむために修学旅行生やお客様が大勢訪れているのに、北アルプスの三段紅葉を中々楽しむ事ができない状況だ。お客様に接する皆さんには、より一層心の温かさを届けてもらいたい

と願ってしまう。この積み重ねが歌人の遠方智さんの一首にある「選ばれた地方」「選ばれない地方」「選ばれても困らぬ地方」で表現されている「選ばれなくても困らない地方」として評価される地域になるのではないだろうか。こ

れまで行政が「選ばれた地域」になりたいと取り組んだ施策が本当に正しいのか考える良い時期なのかもしれない。

本から欧州に輸出する工芸品の包み紙として重宝された歴史がある。そして欧州の絵画に大きな影響を与えた。地域が大切だと思っほしい、知ってほしいと願っているものが、目立たない場所

今、浮世絵は世界的に評価される美術作品だが、19世紀には、日

でも鮮明に記憶に残っている。国語学者大野晋さんの著書「日本語学習帳」には、新聞や雑誌に使われる単語の数は年間およそ3万語。その内5、6割は1度しか使われない。「つまり、半分の単語は1年に2度とお目にかかる事が無い」と。地域をアピールする言葉は、容易に見つからないだろう。だからこそ地域住民が参加した取り組みの継続が求められるの

だろう。冬のシーズンを迎えるが、残念ながら多く

の人の心にコロナ禍によるストレスから、ふとしたことに対して怒りっぽくなってしまう人が大勢訪れるに違いない。怒りのピークは感じてから長くても



猿の被害。食料不足か抜けない大根を畑内で被害に

秒程度とされている。それらに対応するための方策も大切だと考えるべきなのだろう。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)